

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

岡山県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者数
2	学生ボランティアの研修会開催	専門学校生、短大・大学生	2回開催 参加100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業	10社新規登録
2	送迎可能な協力団体の確保	血液不足時に献血に協力いただける企業・専門学校等	動員協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)
2	はがきによる献血依頼	街頭献血等、一般の方が参加できる会場での過去2回分の献血経験者	応諾者数(実協力者数)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数増加	年1回実施企業および数年間献血依頼をおこなっていない企業	10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ等への不足時の献血協力依頼	型別不足等に献血に協力していただける県下各ライオンズクラブ等のメンバー	40団体

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

広島県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	大学献血推進協議会セミナー	大学生・短大生・専門学校生	2回開催、参加100人
2	集まる5DAY	大学生・短大生・専門学校生	5回開催、参加50人
3	学生献血推進強化	大学生・短大生・専門学校生	学内献血400mL率を80%

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	新規事業所	10社増加
2	成分献血協力団体の確保	新規団体	5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者50人以上(現在登録者約320人)
2	はがきによる献血要請	前回400mL・血小板成分献血者	5,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	前回400mL献血者	4,000人(上記③に含まれる)
2	400mL献血の推進	400mL可能者の内200mL希望者	希望者全員に推進する

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

山口県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	セミナーの開催	短期大学生・大学生	2回開催 参加100名
2	DMを活用しダイレクトに依頼する	18～29歳で400mL献血可能者	2回以上、キャンペーンにあわせて実施
3	大学献血の発展と拡張	18～22歳	27回実施中であり、新規を1校以上追加
4	広報媒体を利用した啓発・啓蒙	16～29歳	2回以上、キャンペーンにあわせて実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び、献血会場周辺企業、ロータリークラブ、法人会	15社・団体
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等で献血実施が困難な状況になった企業及び、新規団体で従業員数の問題等で献血会場としては難しい企業	100社・団体
3	新規団体の協力依頼	ロータリークラブ、ライオンズクラブ、法人会等の団体	10社・団体
4	成分献血協力団体の拡大	既献血団体及び小人数の企業・団体	10社・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	メールからの予約500人以上
2	県職員献血協力者登録者名簿の活用 市・町職員献血協力者名簿の活用	県職員献血協力者名簿提出者に依頼 市・町職員献血協力者名簿提出者に依頼	年間1,000人以上
3	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	年間2,400人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血会場推進資材の活用(広報用テープ・必要本数たて看板)	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	高校生卒業記念献血キャンペーン及び学内高校献血受入れ	400mL献血可能者	3校
4	へモQ導入(H18.8月～試験的に一部の会場にて実施中)	特に400mL献血可能な女性を対象とする	全献血会場:400mL献血目標に対し2%増が可能 ※平成19年度400mL献血目標(33,240人+2%)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	4人/日を目標で年間1,400人
2	献血協力団体に定期的に依頼	成分献血献血者	30団体で年間1,200人
3	キャンペーンを実施	既血小板成分献血者	キャンペーン等により200人血小板成分献血者確保

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

徳島赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	夏休み親子血液ゼミナール	小学生4~6年生と保護者	2回開催(100名)
2	学内献血・パネル展	大学生・専門学校生	各大学等で10回開催(参加者1,000人)
3	若年層献血キャンペーン(月間)	10~20代の若者	2期間開催(400名)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施事業所及び献血会場周辺企業の開拓	20社新規開拓
2	血小板成分献血協力企業・団体の拡大	概献血団体及び少人数企業・団体	20社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	推進用チラシの作成と配布	献血者及び一般	応諾者500人以上
2	未加入献血者へのDMの発送	固定施設利用者の未加入者	応諾者200人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる。)
2	血液センター玄関に電光掲示板の設置	一般通行人	血液センターでの献血者数の増加(昨年比5%増)
3	市町村巡回時の400mL献血協力者へのDMの送付	市町村巡回先の前回・前々回の400mL献血協力者	献血者数の増加(前年比5%増)

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

香川県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	高校生街頭キャンペーン	高校生	年2回 40名
2	施設見学	小中学校生	年10回 200名
3	はがき・電話による献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	協力者 13,000名以上
4	セミナー開催	大学・専門学校	年4回 400名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼動50人
2	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)
3	休眠企業の掘り起こし	数年間、献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	12カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがき・電話による依頼	400mL献血可能者	移動採血車の献血実施場所における前回献血者
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	平日の献血者確保	全献血者	15人/週を目標に年間800人を確保する。
2	次回の予約推進	血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。
3	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

愛媛県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	専門学校・大学校内献血実施の増加	学生	大学5校年3回。専門学校年2回実施
2	若年者献血キャンペーン(学生赤十字奉仕団による街頭献血)	街頭献血現場の若者	年7回程度実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	青年会議所の団体献血	青年会議所会員	県内10会議所の年2回実施
2	成分献血協力団体の拡大	既献血団体及びルーム近くの小企業	10社程度

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(リピートあいビー)会員	応諾者数1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	事業所・街頭における前回・前々回献血協力者に対し献血協力依頼	応諾者数2,000人以上
3	固定施設における成分献血者へ複数回献血クラブへの登録の推進	献血ルームでの成分献血者	年間500人の登録

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	200mL献血は必要本数のみルームで採血	全血献血者	200mL献血率3%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	ポイント制度の導入	毎週月曜日から金曜日の成分献血者	4人/日増加をはかり、年間1,000名以上

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

高知県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数4,000人以上
2	セミナー開催	短大・大学生	4回開催 参加200人
3	若年者イベント献血	18～22歳の若者	参加300人以上、期間中の10・20代献血者構成比35%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	定期献血は困難であるが、緊急時に要請する団体	動員協力2団体
3	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	5事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)40人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,000人以上
3	実施場所の年間回数増加	年1回実施場所	5カ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に持参
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所の年間回数、実施時期等の精査	年3回以上実施場所	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	1校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成19年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	2人/日を目標に724人を確保する。
2	電話による献血依頼	既血小板成分献血者	2人/日を目標に724人を確保する。
3	午前中の献血者確保	全献血者	午前中の平均受付数10人を15人まで増加する。

平成19年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

福岡県赤十字血液センター

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者59,000人以上
2	若年献血者確保キャンペーン("友達紹介キャンペーン")	新規の18～23歳の400mL献血協力者	1,000人以上確保
3	学生献血推進協議会加盟促進	管内の大学・専門学校	5校
4	ルーム近隣の専門学校への推進	専門学校生	30名/月を目標。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業	50社新規登録
2	動員協力団体の確保	ライオンズクラブ等で献血未実施の団体(1団体150人の実績確保)	20団体
3	年間計画の増加	現行登録団体	現在の年間協力回数を各団体1回増加する。
4	新規協力団体の確保	ルーム近隣の事業所及びビル等	年間10社以上の新規確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
3	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
4	講演会の開催	複数回献血クラブ会員及び新規登録者	年1回

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	新規400mL献血確保	献血会場来場者で400mL献血可能者	全会場

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成19年度目標(数値)
1	ルーム店頭での献血呼びかけ	当該入居施設来場者	2人/日(年間700名)を目標。(各固定施設)
2	次回献血の予約	血小板成分献血者	2人/日(年間700名)を目標。(各固定施設)